

愛知県では、愛知県の大学の魅力を多くの方に知ってもらうため、大学生と連携して広報動画を制作・発信する「県内大学魅力発信事業」に今年度から取り組んでいます。

本事業の第一弾として、名古屋大学博士課程教育推進機構と共にワークショップを開催しました。

名古屋大学にある「野依記念学術交流館」に、愛知県内の大学生・大学院生 40 名が集まり、ベテランプロデューサーから映像制作についてお話を聴きながら、「愛知の魅力は何か。どう伝えるか。」という、県内大学魅力発信に向けた取材テーマについてアイデアを出し合いました。

以下、ワークショップの内容をご紹介します。

(1) 開催日時・会場

日時：2023年6月18日（日）午後1時から午後5時まで
会場：名古屋大学 東山キャンパス 野依記念学術交流館



(2) 講師

日笠 昭彦（ひかさ あきひこ）氏
映像プロデューサー・構成 LLC 創造ノ森 代表
元 日本テレビ 報道局プロデューサー/東京大学・上智大学 非常勤講師

(3) 参加者

以下 14 大学から、幅広い年次・専攻分野の学生 40 名に参加していただきました。

内訳：学部 1 年生 11 名、2 年生 7 名、3 年生 12 名、4 年生 1 名、修士課程 3 名、博士課程 6 名

名古屋大学 11 名	名古屋工業大学 2 名	名古屋市立大学 5 名
愛知学院大学 3 名	愛知大学 5 名	椋山女学園大学 1 名
中部大学 4 名	南山大学 1 名	名古屋学院大学 1 名
名古屋経済大学 1 名	名古屋芸術大学 1 名	名古屋商科大学 1 名
名古屋国際工科専門職大学 3 名	名城大学 1 名	

(4) ワークショップの概要

1 本事業の背景について

愛知県には、東京、大阪に次ぎ 3 番目に多い 52 の大学（四年制大学）があり、学ぶ環境が充実しています。しかし、大学進学時に東京圏に進学する学生が多い状況が続いているのが現状です。人口が都市に集中し、地方の衰退が課題とされる中、国においても 2014 年 12 月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定するなど、地方創生に向けた施策に取り組んでいます。

こうした中、愛知県企画課では、地方創生や人口減少対策には、大学への進学時における人口移動が重要ではないかと考え、大学との連携を強化させ、愛知県内の大学の知名度を上げるため、2021 年度から課内に大学連携グループを新設し、大学の魅力向上に向けた取組を行っていることを説明しました。併せて、全国の大学の知名度や学生数などのデータから、愛知県内大学の状況と課題について説明しました。

2 キャリアプランについて（名古屋大学 ^{もりのりか} 森典華先生）

「今日の出会、機会を楽しもう！」

本事業のアドバイザーとして御協力いただいている名古屋大学博士課程教育推進機構キャリア教育室長の森典華特任准教授から、キャリア形成に関するお話をいただきました。

今回のワークショップへの参加について、着々と変化を続け、多様性が尊重される時代に求められる「多様な人と協働する力」、「0から1を生み出す力」、「前向きに幸を掴む力」を活かし、育む機会としてほしいと、励ましのお言葉をいただきました。



3 特別講演（日笠昭彦先生）

「番組を作る、伝えるということ。」



「はい、拍手！」と言われたらどのように拍手しますか？
「拍手」一つをとっても番組を盛り上げる上で大事な演出で、最初のきっかけは拍手。「強く短く」がポイントとのこと。

3年間で中京テレビの夕方のニュース番組の総合演出を担当し、その後、日本テレビの報道局で15年ほど勤務。多年にわたりドキュメンタリー番組の制作を手掛けた日笠昭彦先生から、ご自身の経験を基にお話をいただきました。

PRの仕事は、「伝えること、演出すること。」、「小さなきっかけ」が大切。

「違和感」が引っ掛かり、関心が留まり、そして人の心に刺さる。タイトル付けも演出の一つ。

- A) 過酷なロケ① 2000円で軍隊を雇う？
- B) 過酷なロケ② ラクダとヤギはどっちが美味しい？
- C) 過酷なロケ③ 泣ける オ・モ・テ・ナ・シ
スラム街の手作りラーメンと汚染されたトナカイ

上記は、実際に先生がロケ現場で経験した出来事に付けたタイトルです。

講演の中で、「伝える」の基本を体感するためのワークショップを実施。自分のスマートフォンの中から紹介したい写真を一枚選び、タイトルを付け、見る人を惹きつけるコメントを考える。そして全体で紹介し合いました。



4 グループワーク・発表

「伝える」ということの実践編として、各班で仮想PR番組「私の愛知のここが凄い！」の内容を企画しました。各チームの発表内容はこちら↓↓↓

★チームA



タイトル：「日本のハートで研究しよう！」

留学生を対象として、ノーベル賞を受賞した研究者を輩出した大学で研究できること、経済的にも地理的にも日本の心臓部分であることといった愛知で学ぶ魅力を紹介する番組。留学生メンバーからは、愛知は落ち着いた環境が多く、研究に最適との意見がありました。

★チームB

タイトル：「ふらっと愛知なグルメ旅～食べてみや～」

県外の高校生に向けて、愛知県のグルメの魅力を紹介する番組。お手頃の値段でふらっと一人で行きやすく、割とどこにもあるグルメが多いところが愛知の魅力とのこと。また、県外から県内の大学に進学した学生が、地元へ帰省する際のお土産にできる商品のPRも含まれており、県外に住むご家族にも愛知の魅力が伝わるストーリーまで考えられていました。



★チームC



タイトル：「モビる未来を掛け算しよう」

一見車とは関係なさそうな学部の研究と車に関連するテーマで掛け算を創っていく番組。「大学での学びが愛知の産業の中心である車の未来とどう結びついて、自分の未来をどう駆け抜けられるか」ワクワクしてもらいたいという思いが込められている。様々な学生に愛知に来てもらうことで、車の未来が狭まらず、もっと豊かに描けるのではないかな。

第1回から第3回の内容は以下のとおり。

①行動経済学×カーシェア

過密な名古屋では、カーシェアの技術を生かし、行動経済学による効率的な分配が必要で、そのための具体的なフィールドワークができるのが愛知の魅力。

②心理学×事故予防システム

脳波を分析する技術を使い、車の運転を調整するシステムを紹介。

③組み込みシステム×デザイン学

進歩した組み込みシステムとデザイン学をどう活用するか考えていく。

★チームD

タイトル：「第2の東京！？ AICHI」

都会にあこがれる地方の高校生を対象に、愛知の観光・祭り・歴史の魅力を発信する番組。愛知にはジブリパークや名古屋城などの観光名所が数多くあり、交通の便も良いほか、コスプレ大会や有松絞りまつりなど、海外の方々とも交流する場が沢山ある。お金がない学生にとって、自身の生活を楽しむためのコストパフォーマンスが良いことを伝えます。



★チームE



タイトル：「知名度だけで決めてない？」

～安心で決めるスマートな大学選び～

知名度はいったん諦めて。

愛知だからこそ良いところは、、、「安心！」

愛知の大学に進学すると3つの安心がついてくる。そんな魅力を大学受験生に伝える番組。

チームEが考える3つの安心は以下のとおり。

- ①治安が良くて安心：大学の門がなく、地域の方も自由に出入りができ、地域間の交流がある大学が多い。治安の良さがあってこそ。
- ②アクセスが良い：日本の中心であるため、日本のどの地域へもすぐに帰省しやすい点が魅力。近隣県からはJRや近鉄を使って通うこともできる。青森県から愛知県に進学したメンバーからは、「暮らしやすい、帰省しやすい、移動しやすい」との意見がありました。また、観光や生活を楽しむことも留学の醍醐味と考える留学生メンバーからも、愛知県はどの地域にも行きやすいとの意見もありました。
- ③就職が安心：大企業のみならず、オンリーワンの中小企業が多くあり、安心できる就職環境がある。

★チームF

タイトル：「空きコマに行かん？ サツマイモ線（ライン）を使って！」

地下鉄の名城線（紫色）と東山線（黄色）の路線図の色に着目して名付けられた「サツマイモ線」。沿線上には、数多くの大学や観光名所が立地しているため、様々な大学と観光名所に赴き充実した余暇を過ごせるアクセスの良さについて、愛知県へ進学予定の高校生に伝える番組。学生や教員の入場料が無料の美術館・施設が多い点も魅力とのこと。

大学生チームFから生まれた言葉「サツマイモ線」が番組を見る人の脳裏に留まりそうです。



5 講評・まとめ

グループワークを終えて、日笠先生から以下のコメントをいただきました。

日常には、色々な企画の種が転がっている。自由な発想・創造力を活かして「何と何を掛け合わせるとどのような企画が生まれるか」が企画立案において大事な視点である。また、自分の進路を考える上でも、自分の中の関心ごとや思い、価値観を掛け合わせると見えてくるものがある。

感受性豊かな二十歳前後に、大学の中に身を置くことで沢山見えてくるものがある。大学で得た知見を何かの役に立つ、人の心を動かす発想に繋げていってもらいたい。



人の五感を揺さぶり、心を動かす言葉を紡ぎ出す秘訣とは。

活字離れと言われる世の中でも、一日の中で何十回もスマホを見て、多くの文字を頭に入れている。その言葉をどう蓄積できるか。ドラマや小説を読んで、心に刺さるものは留めておく、自分の中に蓄積し続けることでいつか自身の表現に何らかの影響を与えることがある。言葉を自分の味方につける吸収の仕方を身につけ、文字や映像に対する距離感を縮めていくことが大切である。

(5) 最後に

本ワークショップでは、日笠先生から豊富な経験に基づく、示唆に富む大変貴重なお話を聞くことができました。御参加いただいた学生の皆様にとっても、何かのきっかけ・気づきのある時間にしていただけたら幸いです。

開催する上で御協力いただいた、名古屋大学森先生にも心より感謝いたします。
ありがとうございました。

